

# 中日新聞2018年11月14日朝刊

## モリコロ基金終了 助成活動振り返る

### 最後のフォーラム

二〇〇五年の愛・地球博（愛知万博）の収益を原資に設立され、本年度で解散する県などの「あいちモリコロ基金」の終了を記念するフォーラムが十二日夜、名古屋・名駅のウイנקあいちであった。写真。県内のNPO法人の関係者ら百五十人が活動を振り返った。

基金の運営側が、総額十億八千万円に上った助成について報告。三千七百二十四件の申請に対し、助成先に選ばれたのは千六百二件で、採択率は43%だった。

助成先の活動分野は「環境保全」が最も多く、「子どもの健全育成」「保健医療福祉」などと続いた。アンケートによると、助成を受けた活動の40%が、その後も発展、継続しているという。

運営に関わった市民が同



基金にかわる「中部圏地域創造ファンド」を新たに設立し、今夏から本格的に活動を始めている。資金は個人や企業から寄付を募るといふ。パネル討論に参加した会津大短大（福島県）の青木孝弘准教授は「市民活動を支える基金は社会の基盤。持続させることが大事」と訴えた。